

平成 25 年 度

第 18 回「リサイクル技術開発本多賞」

募 集 案 内

「リサイクル技術開発本多賞」は、長年、廃棄物リサイクルの分野に携わってこられた元・大阪市立大学工学部教授、元(財)クリーン・ジャパン・センター参与 故本多淳裕先生が、自らの著書出版印税を 3R 関連開発に従事する研究者・技術者等へ提供し、研究及び技術開発を奨励する制度として提案なされ平成 8 年度に設立された表彰制度です。

3R に関係する研究・技術開発に従事される研究者・技術者の皆様のご応募をお待ちしております。

なお、現在、(財)クリーン・ジャパン・センター(昨年 3 月末解散)の事業を継承した本協会が事務局を務めています。

期限は、平成 25 年 6 月 10 日(月)です。

応募申請書提出・お問い合わせ先

〒101-0044

東京都千代田区鍛冶町 2-2-1 三井住友銀行神田駅前ビル 7 階

社団法人産業環境管理協会

資源・リサイクル促進センター

電話 03-5209-7704

F A X 03-5209-7717

社団法人 **産業環境管理協会**

この応募案内は、資源・リサイクル促進センター Web サイト(<http://www.cjc.or.jp/>)『お知らせ「平成 25 年度第 18 回「リサイクル技術開発本多賞」募集について」』からダウンロードできます(MS-Word)。申請書の様式としてご利用ください。

応募要領

1. 目的

3 R (Reduce、Reuse、Recycle) 技術開発の分野で優れた業績をあげている研究者・技術者を顕彰することによって3 R 関連技術の発展を奨励し、もって循環型社会の構築に寄与することを目的とします。

2. 対象

(1) 対象者

3 Rに関する技術の開発に従事し、優れた研究論文又は実効のある技術論文発表を行った国内の大学、高専、公的研究機関、民間企業の研究者・技術者（個人又はグループ）を対象とします。

(2) 対象分野

発表論文により、研究論文と技術論文の2区分に分けて募集します。

研究論文は主に国内の大学、高専、公的研究機関の研究開発、技術論文は主に民間企業の技術開発という位置付けであり、次の各項に該当する分野を対象とします。

- リサイクルを必要とする資源の枯渇状況の調査、解析
- 廃棄物の発生抑制（リデュース）に関する技術開発
- リユース、リサイクルを促進する技術の研究開発
- ・リユースし易い製品の設計
- ・リサイクルし易い製品の設計
- ・リサイクルを進めるための有効なプロセスの開発
- ・リサイクル材料の有効な新規用途の開発
- 前項 に関連する技術及びシステムの実用化開発
- その他、3 Rの普及・進展に貢献する効果的な技術開発

(3) 対象発表誌

論文は、5年以内に国内外で発表されている次の学術誌、技術誌等に発表されたものとします。

- 当協会事業、旧クリーン・ジャパン・センター事業における印刷物
- NPO 法人資源リサイクルシステムセンター事業における印刷物
- 廃棄物資源循環学会、エネルギー・資源学会、資源・素材学会等の各種学会誌・論文誌、各種学会や研究発表会の講演論文集
- 技術雑誌、団体の機関誌、企業の技術誌・技報
- リサイクルに関連した特許公報
- その他リサイクルに関する著作物、単刊本

3. 募集

公募（本人の申請）により募集します。

なお、過去に一度申請して受賞見送りとなった報文も再度応募可能です。

(1) 募集期間 平成25年3月11日(月)～6月10日(月)

(2) 応募書類 申請書(添付所定様式) 対象報文、関連資料一式。
なお、報文が外国語の場合は日本語の翻訳文を添付下さい。
部数：原本(上記一式)一部とそのコピー6部をご提出ください。

(3) 応募申請書様式 付表 - 1

(4) 他の表彰との関連

過去に本賞を受賞された個人又はグループの応募はご遠慮ください。

(5) 応募申請書提出先及び不明な点のお問い合わせ先

〒101-0044

東京都千代田区鍛冶町2-2-1 三井住友銀行神田駅前ビル7階

社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター

電話：03-5209-7704 FAX：03-5209-7717 E-mail award2013@jemai.or.jp

4. 審査

社団法人産業環境管理協会内に設置された選定委員会において審査を行います。報文内容(技術面、環境面)及び関連する研究・技術業績等により総合的に審査されます。

5. 表彰

(1) 表彰方法

表彰件数は2件以内とし社団法人産業環境管理協会会長名で賞状及び副賞(賞金50万円/件)を授与します。

(2) 表彰決定

平成25年9月(予定)

(3) 表彰時期、場所

平成25年10月、東京(予定)

6. その他

(1) 情報公開：受賞者名、所属機関名、受賞報文名・発表誌・概要、関連業績は一般公開いたします。

(2) 選定に関する個々のお問い合わせには応じません。

(3) 応募に関する提出資料については返却いたしません。

7. 添付資料

- ・付表 - 1 応募申請書様式
- ・付表 - 2 受賞者一覧

以上

第18回「リサイクル技術開発本多賞」応募申請書

応募者	応募形態	個人 / グループ (いずれか選択)		所 属
	氏 名	(グループ応募の場合、代表者氏名)	印	(グループ応募の場合、代表者の所属以外のグループ名がある場合はそれも記載)
	最終学歴	(グループ応募の場合、代表者の最終学歴)		
	連絡先	(グループ応募の場合、代表者の連絡先を記載ください) 〒 TEL: FAX: E-mail:		
区 分	研究報文 / 技術報文 (いずれか選択)			
報文名				
発表誌				
報文要旨				
研究・技術業績	(今回の報文の発表に至るまでの一連の関連業績とそれを示す報文・発表誌・発表年) (今回の報文が広範なテーマの一部をなす場合には、そのテーマ名と応募者の役割についても記述)			
対象報文・業績に係る他表彰受賞の有無	(受賞ありの場合には、表彰名・年度を記述ください)			

その他

(1) 申請書補足

グループ応募において、メンバーが同一の機関（会社・団体等）に所属していないときには、必要があればそれぞれから一人のグループ代表を申請できます（表彰状は各グループ代表に授与されます）。この場合には、「応募者」欄にグループ代表全員について必要事項を記載ください（記入欄に収まらない場合には別紙に記載）。

申請書「報文名」に記載する報文は1件のみです。また、全文の写しを同封ください。

申請書「研究・技術業績」には、今回の報文の発表に至るまでの一連の関連業績とそれを示す報文・発表誌・発表年を記載ください。また、今回の報文が広範なテーマの一部をなす場合には、そのテーマ名と応募者の役割（業績）、関係者などについても記載ください。また、業績が多く書ききれない場合には、報文一覧表を同封ください。

所定様式に収まらない場合には適宜別紙に追加記載ください。

その他、特許等の関連資料があれば同封ください。

(2) 推薦状

応募に際して推薦者がいる場合にはご提出ください。

推薦者	所属： 役職： 氏名： 印
推薦理由	

受賞者一覧
(第1回～第17回)

(敬称略)

(1) 第1回(平成8年度)

高知大学理学部水熱化学実験所 山崎 仲道
報文名「リサイクルと水熱反応」

株式会社神戸製鋼所 AR-PLANグループ 大隅 研治(グループ代表)
報文名「使用済アルミニウム飲料缶(UBC)のリサイクル」

(2) 第2回(平成9年度)

通産省工業技術院資源環境総合研究所 遠藤 茂寿(グループ代表)
報文名「形状分離技術を利用したプリント基板廃材のリサイクリングに関する研究」

秩父小野田株式会社 エコセメントプロジェクトチーム 安斎 達男(グループ代表)
報文名「都市ごみ焼却灰から製造されるエコセメント等」

(3) 第3回(平成10年度)

関西大学工業技術研究所 中野 加都子
報文名「リサイクルの環境影響の定量的評価に関する研究」

共同受賞

テーマ名「火力発電所 EP 煤(すす)の完全再資源化と、回収バナジウム利用の省資源リサイクル型電力貯蔵用電池の開発」

鹿島北共同発電株式会社 後藤 政弘(グループ代表)

報文名「火力発電所電気集塵機捕集煤の完全再資源化について」

通商産業省工業技術院電子技術総合研究所 野崎 健(グループ代表)

報文名「Vanadium Redox Flow Battery with Resources Saving Recycle Ability
I. Production of Electrolytic Solution for Vanadium Redox Flow Battery from
Boiler Soot」

(4) 第4回(平成11年度)

通商産業省工業技術院物質工学工業技術研究所 田辺 和俊(グループ代表)

報文名「近赤外分光測定とニューラルネットワーク解析を組み合わせたプラスチック廃棄物の非破壊判別」

東京大学工学部応用化学科 関根 泰

報文名「ポリプロピレンのラジカル転移型接触分解における反応制御」

(5) 第5回(平成12年度)

経済産業省産業技術総合研究所機械技術研究所 増井 慶次郎(グループ代表)

報文名「ライフサイクル戦略に基づいた製品設計のためのQFD」

トヨタ自動車株式会社 プラントエンジニアリング部 近藤 元博(グループ代表)

報文名「環境負荷の発生を抑制した高度リサイクル技術の開発」

(6) 第6回(平成13年度)

前田建設工業株式会社 勝又 正治(グループ代表)

報文名「高含水建設搬出土の改良システムの開発」

鹿島建設株式会社 日野 俊之

報文名「水蒸気ヒートポンプによる省エネルギー蒸発脱水技術」

(7) 第7回(平成14年度)

金沢大学工学部物質化学工学科 中村 嘉利(グループ代表)

報文名「汚染物のゼロエミッションを実現できる工業技術の提案を目指したユーカリから分離した各成分の有用資源化」

日本鋼管株式会社 総合材料技術研究所 浅沼 稔(グループ代表)

報文名「1,000t/y 規模パイロットプラントによる塩ビ樹脂脱塩素技術の検証」

(8) 第8回(平成15年度)

東京大学生産技術研究所 岡部 徹(グループ代表)

報文名「活性金属蒸気を利用する貴金属の高効率分離・回収プロセスの開発」

中部電力株式会社 電力技術研究所 伊藤 博之(グループ代表)

報文名「スチールグリットを利用した小型遠心式プラストシステムによる産業廃棄物削減技術」

(9) 第9回(平成16年度)

株式会社 東芝 小林 英樹(グループ代表)

報文名「環境調和型設計のための製品ライフサイクルプランニング手法」

東京エコリサイクル株式会社 馬場 研二(グループ代表)

報文名「家電リサイクル分野におけるゼロエミッションの達成」

(10) 第10回(平成17年度)

早稲田大学 政治経済学術院 中村 慎一郎

報文名「廃棄物処理と再資源化の産業連関分析」

株式会社神戸製鋼所 アルミ・銅カンパニー 技術部 柳川 政洋(グループ代表)

報文名「アルミニウムスクラップ溶湯中の微細介在物除去における高効率フィルターの開発について」

(11) 第11回(平成18年度)

東北大学大学院 環境科学研究科 吉岡 敏明

報文名「Selective production of benzene and naphthalene from poly(butylene terephthalate) and poly(ethylene naphthalene-2,6-dicarboxylate) by pyrolysis in presence of calcium hydroxide (消石灰存在下におけるポリブチレンテレフタレート及びポリエチレンナフタレートの熱分解によるベンゼン及びナフタレンの選択的生成)」

大成建設株式会社技術センター建築技術開発部 長瀬 公一(グループ代表)

報文名「廃棄発泡スチロールの有効利用技術に関する一連の用途開発技術(テブサム)の開発」

(12) 第12回(平成19年度)

東京造形大学デザイン学科サステナブルプロジェクト専攻 山際 康之

報文名「環境適合製品の設計計画プロセスによる分解性設計」

古河電気工業株式会社 環境・エネルギー研究所環境技術開発部 徳田 繁(グループ代表)

報文名「架橋ポリエチレンリサイクル材適用 OC 絶縁電線の開発」

(13) 第13回(平成20年度)

株式会社 エネルギア・エコ・マテリア 技術部 齊藤 直

報文名「ハイボリュームフライアッシュコンクリートの日本での実用化に向けて」

新日本製鐵株式会社 名古屋製鐵所 エネルギー・資源化推進部 資源化推進グループ 渡辺 秀美(グループ代表)

報文名「一貫製鐵所におけるゼロエミッション体制の確立-水処理スラッジリサイクル技術開発」

(14) 第14回(平成21年度)

広島大学 環境安全センター 西嶋 渉
報文名「オゾンを用いた塩素含有プラスチックの分離」

新日本石油株式会社 研究開発本部 中央技術研究所 迫田 尚夫
報文名「高勾配磁気分離機によるFCC廃触媒削減技術」

(15) 第15回(平成22年度)

(独)産業技術総合研究所 環境管理技術研究部門 田中 幹也(グループ代表)
報文名「溶媒抽出法を用いた使用済み無電解ニッケルめっき液からのニッケルリサイクルに関する研究」

鹿児島工業高等専門学校 都市環境デザイン工学科 山内 正仁(グループ代表)
報文名「キノコ生産を核とした焼酎粕乾燥固形物の循環システムの構築」

(16) 第16回(平成23年度)

東北大学 多元物質科学研究所 中村 崇(グループ代表)
報文名「Studies on Bromination and Evaporation of Zinc Oxide during Thermal Treatment with TBBPA(TBBPAの熱処理による酸化亜鉛の臭素化と揮発に関する研究)」

大阪大学大学院工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 西嶋 茂宏(グループ代表)
報文名「High Gradient Superconducting Magnetic Separation for Iron Removal from the Glass Polishing Waste(超電導高勾配磁気分離法によるガラス研磨廃棄物からの鉄系成分の除去)」

(17) 第17回(平成24年度)

独立行政法人産業技術総合研究所 環境管理技術研究部門 大木 達也
報文名「Physical separation process for recovering tantalum capacitors from electronic devices mounted on printed circuit boards(プリント基板上の電子素子群から tantalum コンデンサを回収するための物理選別プロセスの開発)」

サントリービジネスエキスパート株式会社 上新原 十和(グループ代表)

協栄産業株式会社 古澤 栄一(グループ代表)

報文名「物理的再生法によるPETボトルリサイクルにおける汚染物質除去効果」

以上

